



新聞圖會 第三号

實ニ天罰ハ恐るベシ 叙迎誕生會の夜ニ

當リ大阪近在本庄村ニ入殺シ有殺されハ

京の徳松ト云壯年之其場ニ有一竹ト云

女を糾問有一梅と縁ある北野の

熊ト云私の情郎が殺しありト

と云故熊を責れが苦痛ニ堪々

竹と徳とが蓮華舟の上で

轉ぶを見附煩悩ヲ止む

寺ニ掛ありトと白狀

既ニ冥鬼トあるべきを

竹の相顔怪ト云れ

大岡とときて問落

熊を誣し極まりて

熊ハ命助かりぬ然る小竹ハ其日より痘と

蠱毒トが同殺シて蒲院の忌日に熾魔鬼の廳へ

引渡されり此頃ハ淨破璃の鏡より罪の次第

を明白あふんと冥府の電信待との事ニ

竹が生れ丹波国氷上郡本郷村親ハ代々



殺され



獵人まで

親の罪が

報ひらる

夫の家を

脱走

自由の

權を

嬢が

上下の

口を

糊

居

亥

婦あり

舟木翁

都鳥

しる

ホリ平三

八尾善板